

令和7年度 東京都立成瀬高等学校学校経営報告

校長 決定

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】十分達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

1 重点目標

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
ア 学校運営・学校経営 【A】	<p>① 客観的なデータに基づいた学校経営・校務分掌を推進する。</p> <p>② 8割の生徒が町田市内から進学してくる状況を踏まえ、地域の要望に根差した学校運営を行う。</p> <p>③ 各分掌・各学年の目標・課題を年度初めに設定し、学期ごとにPDDCA会議を開催して、組織的に成果と課題を共有するとともに学校運営連絡協議会において報告を行う。</p> <p>④ 教務部の計画に基づき、全教職員で学校見学会及び学校説明会等の充実を図り、出前授業、中学校訪問及び各種説明会等に積極的に参加する。</p> <p>⑤ 部活動や学校行事等、ホームページ等における発信内容を魅力あるものにし、更新回数を増やす。</p> <p>⑥ 「GE-NET EE」、「理数研究校」、「海外学校間交流推進校」の東京都教育委員会指定3事業を推進し、本校の教育活動の質と生徒の学習意欲の向上を図るとともに希望進路の実現に繋げる。</p> <p>⑦ 3事業に関連した科学の甲子園のコンテストやTEP-CUP等の大会に出場し、学校広報・生徒募集活動を展開する。</p> <p>⑧ 保護者コミュニケーションシステム・コンディションレポートを活用して、学校・生徒・保護者との連携を強化する。</p> <p>⑨ 服務規律（情報セキュリティ強化、個人情報情報の適正管理、ハラスメント防止、性暴力防止、「事故発生時の救急体制」に則った安全配慮義務の遵守、適正な会計処理等）の徹底を図り、服務事故0件を目指す。事故発生時には管理職に迅速な報告を行う。</p>	<p>① 学校経営計画では数値を用いた計画を立案した。</p> <p>② 探究の時間、防災訓練、出前授業及び文化祭等で地域と連携した活動を行った。</p> <p>③ 学校運営連絡協議会において、各分掌・各学年からPDCAサイクルを用いた取組と正確について報告を行った。</p> <p>④ 教務部の計画に基づき、全教職員で分担して、学校見学会及び説明会を実施し、出前授業、塾訪問を行った。</p> <p>⑤ BB通信を魅力ある紙面にして、部活動や学校行事について更新回数も増やした。</p> <p>⑥ 「GE-NET EE」、「理数研究校」、「海外学校間交流推進校」の指定を活用し、英語、理科、海外における探究活動の充実を図った。</p> <p>⑦ 3事業に関連した各種コンテストに出場したが、賞を取るには至らなかった。</p> <p>⑧ 保護者コミュニケーション及びコンディションレポートを活用する教員・保護者が増えた。</p> <p>⑨ 服務規律の徹底を図り、適宜、注意喚起を行うことによって服務事故0を達成した。生徒の怪我や苦事等、事故発生時には管理職に素早く報告を上げる体制が整った。</p>

	<p>⑩ 「学校における働き方改革プラン」及び「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、教職員の意見も取り入れながら業務改善を行う。マイ定時退庁日等の設定、夏季休暇や年休の取得促進等により、在校時間の縮減を図る。</p>	<p>⑩ 年次有給休暇年間取得日数16日以上が35名から40名に増えた。また、勤務時間外に月45時間以上校内にいる教員が年間で52名中のべ172名から54名中のべ158名に減少した。</p>
<p>イ 学習指導 【C】</p>	<p>① 板書と講義中心の受動的・一方通行的な授業形態から脱却し、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)に根ざした授業を行う。</p> <p>② 教科・科目間の連携を強化し、探究を視野に入れた教科横断型授業を推進する。</p> <p>③ 「総合的な探究の時間」を全校体制で推進し、3年間の指導計画に則った内容の充実を図る。</p> <p>④ 授業見学週間等を設定し、各学期に1回以上、見学のねらいを明確にした教員相互の授業見学を行う。</p> <p>⑤ 各教科で講習内容を検討し、進路指導部を中心に全校体制で効果的な講習を実施する。</p> <p>⑥ 早期に長期休業中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画の作成を促す。</p> <p>⑦ 同一科目における評価規準の統一、全定期考査の共通問題化を図り、観点別評価を含めた学習評価の規準を統一する。</p> <p>⑧ 難関大学進学を目指す上位層の学力向上とともに、中間層・下位層の学力の底上げも図る。</p> <p>⑨ 一人1台端末を活用するとともに、教育ダッシュボード、統合型校務支援システム及び統合型学習支援サービスを活用した学習指導を推進する。</p> <p>⑩ 反転学習等の授業方法の改善、家庭学習や長期休業期間中におけるオンデマンド授業の実施、オンライン配信やプロジェクタ等ICTを活用した授業の実践及び生徒間の情報共有による対話的学びの実践を行う。</p>	<p>① 板書と講義中心の授業が依然として多く、机間指導も発問も少ない。受動的で独話的で浅い学びとなっている。</p> <p>② 理科と社会科などで教科横断型の授業を展開した。</p> <p>③ 成果発表会などで「総合的な探究の時間」を全校で取り組む体制が整いつつある。</p> <p>④ 若手の研究授業・ベテランによる模範授業を行った。一人年間3回の授業見学は未達成。</p> <p>⑤ 進路指導部を中心に講習を実施したが、希望者が少なく成立しない講座もあった。</p> <p>⑥ 早期に長期休業中の講習予定を発表した。生徒のニーズに対応した講座の開講を目指す。</p> <p>⑦ 年度内の評価規準の統一は図れたが、同一教科でも年度により評価にばらつきがあった。</p> <p>⑧ 選択科目及び講習は上位層向けのもは充実しているが、中間層・下位層の底上げが課題。</p> <p>⑨ 一人1台端末については活用している教員は少ない。本校は45分授業なので授業の効率化を推進する必要がある。</p> <p>⑩ ICTを活用した授業については道半ばである。いまだに、チョーク&トークの昭和型授業から転換できない教員が多い。今後も授業改善に取り組む。</p>

<p>ウ 進路指導 【B】</p>	<p>① 進路指導部を中心とした組織的な進路指導体制を確立し、進学指導対策会議等を開催し、進路指導部、学年及び教科が一体となった進路指導を行う。</p> <p>② 進路指導部及び各教科が模擬試験等の結果分析を行い、進学指導対策会議等で分析結果について進路指導部、学年及び教科で共有し、進路指導の改善に結びつける。</p> <p>③ 国公立大学、難関私立大学への生徒の進学希望を叶えるため、教員による大学入試研究を促進する。高い志を実現するため、志望者の集団形成・出願者の増化をめざす進路指導体制を構築する。</p> <p>④ 三者面談又は保護者面談を積極的に行い、学校と家庭の共通理解を図る。</p>	<p>① 進路指導部を中心に組織的・計画的な進路指導を行った。予備校講師による志望校検討会を開催した。</p> <p>② 模擬試験の分析会を行ったが、正答率や経年変化等評論家的な分析に留まる教科があり、校内での分析法の共有が必要。</p> <p>③ 教員による大学入試研究は教員任せになってしまい、学校として指導力の向上を図る必要がある。校内に自習室を設け、受験生の集団作りを行う。</p> <p>④ 三者面談については多くのクラスで全員面接を実施した。</p>
<p>エ 生徒指導 【B】</p>	<p>① 日々の教育活動を通じて公共心を高め、登下校のマナー、身だしなみや遅刻指導を徹底する。</p> <p>② 登下校時の自転車事故防止・ヘルメット着用推進を教職員全体で推進する。</p> <p>③ 生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえてSNSの適切な利用について生徒の注意喚起を行う。</p> <p>④ 気になる生徒については、些細なことでも見守りリスト等で情報を共有し、サインを見落とさないようにするとともに、SOSの出し方について周知する。</p>	<p>① 校門指導等により、挨拶と遅刻については改善したが、身だしなみは継続して指導を行う。</p> <p>② 登校時のヘルメット着用率は向上した。</p> <p>③ SNSの適切な利用方法については折を見て指導を行った。今後は、発信時のみならず、AIの利用など受信時の留意事項についても指導を行う必要がある。</p> <p>④ 気になる生徒については教育相談会議において全教員で情報を共有し、長期休業中は学年を中心に情報を共有した。</p>
<p>オ 特別活動・その他 【A】</p>	<p>① 生徒の主体的活動を支援し、HR・部活動・委員会活動・学校行事の活性化を図り、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、生徒に成就感・達成感を享受させる。</p> <p>② 計画的・効率的な部活動運営を推進し、複数の部で都大会（都ベスト32以上）出場を目指す。</p> <p>③ 保健部、養護教諭、スクールカウンセラー及び特別支援教育コーディネーターを中心とした教育相談委員会において特別な支援を必要とする生徒について情報共有を行う。対処法については必要に応じて関係機</p>	<p>① 学校評価アンケートの結果では部活動・学校行事に積極的に参加し充実していると回答した生徒は1年81%、2年77%、3年73%であった。</p> <p>② 水泳部、競技カルタ部は関東大会や全国大会に出場し、ソフトテニス、バドミントン部は都大会に出場を果たした。</p> <p>③ 保健部、養護教諭、スクールカウンセラー、担任、管理職で情報を随時共有し、必要に応じて医療機関に繋げながら、支援を行った。定期的な教育相談会議</p>

	<p>関とも連携し、全教職員による教育相談会議や校内研修等で情報の共有化を図り、合理的な配慮を組織的に行う。とくに、1学年においてはスクールカウンセラーとの全員面接を実施する。</p> <p>④ 首から上の事故については、原則、教員が医療機関に搬送し、受診させるとともにすぐに管理職・保護者に報告する。</p>	<p>やスクールカウンセラーを講師にした校内研修を実施し、特別な支援を要する生徒に対する対応について学んだ。今年度、初めて全員面接を実施した。</p> <p>④ 首から上の事故については、日時に関係なく、管理職に報告を行い、病院搬送まで適切に対応した。</p>
--	---	--

2 重点目標と数値目標

数値目標		今年度数値
(1) 学校運営・組織		
① 学校の満足度	生徒 90.0%以上 保護者 93.0%以上	① 学校の満足度 生徒 89.0 % (1年) 86.0 % (2年) 92.0 % (3年) 保護者 93.0 %
② 服務事故防止研修以外の校内研修	6 回以上	② 服務事故防止研修以外の校内研修 6 回
(2) 学習指導		
① 授業に対する満足度	生徒・保護者とも86%以上	生徒 91.0 % 保護者 88.0 %
② 授業研究及び研修の実施	20 回以上実施	授業研究及び研修の実施 22 回実施
③ 家庭学習時間 (学年+1時間)	1学年 2時間以上 20% 2学年 3時間以上 30% 3学年 4時間以上 40%	1学年 2時間以上 14.0 % 2学年 3時間以上 5.0 % 3年生 3時間以上 58.0 %
③ 教員相互の授業観察	年間3回以上 (学期1回以上)	年間 1人平均 2.53 回
(3) 進路指導		
① 長期休業日中の講習	夏期講習・全学年で実施 ・生徒提示5月中 ・80講座以上の開設・受講者延べ1,300人 冬期講習・全学年で実施 ・30講座以上の開設 ・受講者延べ400人 春期講習・新2・3年で実施 ・4講座の実施 ・受講者延べ80人	夏期講習 37講座 (3年) 22講座 (2年) 8 講座 (1年) 67講座 (全学年対象) 受講者延べ856人 冬期講習 のべ25講座 受講者延べ141人 夏冬計92講座開設 受講者延べ997人 春期講習 のべ19講座 受講者延べ105人
② 模試分析会・模試報告会	年間3回以上実施	② 模試分析会 1回 模試報告会 2回
③ 進学実績 (現役)	ア 大学入学共通テスト受験者数 265人 (95%以上) イ 国公立大学: 受験者数 30人 ウ 国公立大学等合格者 10人 エ 難関私立大学(早慶上理)合格者 2人 オ G M A R C H合格者数 80人	③ 進学実績 (現役) ア 大学入学共通テスト受験者数238人 (90%) イ 国公立大学受験者数 21人 ウ 国公立大学等合格者 6人 エ 難関私立大学(早慶上理)合格者 6人 オ G M A R C H合格者数 62人
(4) 生活指導		
① 部活動加入率 (1・2年)	85%以上	部活動加入率 (1・2年) 81.9 %

④ 年間遅刻者数 各学年、前年度より減少させる	1年	546回
	2年	1680回
	3年	970回
	全体	3796回
(5) 指定校事業関係		
① CEFRA2以上 50%以上 (1・2年生) 85%以上 (3年生)	CEFRA2以上67.4%(1・2年生) 76.2%(3年生)	
(6) 募集・広報・地域活動		
①本校での学校説明会・見学会等参加数延べ 3,300人	①学校説明会・見学会等参加数延べ 3107人	
② HPアクセス数 前年度よりアクセス数増加 HP更新回数 前年度より更新回数増加	1011178回 449回	
③ 応募倍率 推薦枠 2.0倍 一般枠 1.5倍	1.84倍 1.20倍	
(7) 施設設備管理・経営企画室運営		
① 管理運営費と自律経営推進予算の執行率 98%以上	95.1%	
② 一般需用費のセンター契約集約率 (%) 60%以上	65.1%	
③ 令和8年度予算編成 2月完了	2月完了	

3 次年度に向けた課題と対応策

今年度は町田市内の都立高校として地域の期待に応える学校を目指し、二つの柱を立てて学校経営に取り組んだ。一つ目は、進学指導特別推進校である都立町田高等学校に次ぐ進学校として生徒の希望進路の実現を図ること。二つ目は、部活動を活性化し、部活動に思い切り取り組みたい生徒の期待に応えることである。都立町田高等学校は定時制があるため、放課後に部活動の時間を十分にとることができない。町田高校に続く進学校として、進学実績向上と部活動の活性化を本校の学校経営の両輪と捉え、今年度取り組んできた。

進学実績について、早慶上理は合格者が昨年度の1名から6名に増えたが、国公立は9名から6名、GMARCHは73名から62名と残念ながら実績を下げてしまった。令和8年度3学年の入学時の応募倍率が低かったため学力の低い層が入学してきている。さらに、2学年時の家庭学習時間も極めて少なく、希望進路の実現には苦戦が予想されるので、より丁寧な学習指導・進路指導が必要である。

また、令和7年度は、7時間授業の実施に伴う長期休業期間の短縮もあるが長期休業中の講習の講座数が減少した。生徒のニーズにあった講座を用意できず、開講予定の講座を生徒が受講しなかったことが原因と考えられる。教員がやりたい講座ではなく、生徒が必要とする講座の開講を目指す。

教員の授業力向上については、年間3回の教員相互の授業参観を義務づけたが平均は2.7回で目標には達しなかった。新規採用教員の研究授業だけではなく、ベテラン教員による研究授業が実施できたのは良かった点である。今後もベテラン教員による研究授業の機会を設けていく。

本校は45分授業を実施しているので密度の高い授業を実施する必要がある。スマートスクール構想に基づき、一人1台端末の整備が進んでいるが、校内では道具として活用する意欲とスキルが未だ不十分である。成績処理においても、定期考査の採点や分析、観点別評価を行う際、便利なRealtendantの一層の活用を図るなど道具としてICTを活用する雰囲気在校内に醸成し、業務の効率化を図る必要がある。授業についても、チョーク&トークの一方通行の授業を行っている教員がいる。単に知識を問う問題ではなく、考えさせる問題を投げかけ、生徒同士の協議の時間をとるなど、生徒の活動時間を増やし、主体的で対話的で深い学びを目指す。

部活動については、都大会、関東大会及び全国大会に出場する部も増え、一定の成果を上げることができた。技術指導を行ってきた教員が令和7年度末に大量に異動したので、引継ぎ及び育成が今後の課題となる。

「成瀬BB！プロジェクト」については、大阪・関西万博では三菱未来館において研究発表を行い、また、TIPSフォーラム2025では都立学校の代表に選ばれ、発表を行った。さらに、年度末には1・2年合同で成果発表会を開催した。令和8年度もさらに探究活動を充実させる。このためには、教員のファシリテート能力の向上が不可欠で、適切な情報提供や校内研修等でスキル向上を図る。

また、スマートスクール構想に基づき、一人1台端末の整備が進んでいるが、校内では道具として活用する意欲とスキルが未だ不十分である。成績処理においても、定期考査の採点や分析、観点別評価を行う際、便利なRealtendantの一層の活用を図るなど道具としてICTを活用する雰囲気を校内に醸成する必要がある。